

The Asahi Shimbun
and The Elie Wiesel Foundation
for Humanity
Co-host

The Future



of
Hope

Conference

Tokyo—Hiroshima
December 4–8, 1995

『希望の未来』国際会議の記録

●目次

はじめに／朝日新聞社社長・中江利忠	1
参加者のプロフィル	4
国連創設50周年・国連大学創設20周年記念国際シンポジウム	14
前夜祭コンサート	32
開会式／基調演説と「希望の未来」賞授与	36
ノーベル賞受賞者フォーラム	
アウン・サン・スー・チーさんからの会議へのメッセージ	73
第1セッション 《希望を今一次の世代に向けて》	76
インターネット会議（広島—エルサレム）／第2セッション 《実らなかつた希望》	116
インターネット会議（プレトリア—広島—アトランタ）	152
第3セッション 《コミュニケーションによる希望—技術革新と民主主義》	164
第4セッション 《文化と希望》	204
広島宣言	240
市民との対話	242
《希望の未来》報道	257
エリー・ヴィーゼル財團	300
あとがき／朝日新聞社・95年国際会議事務局・村上吉男	301

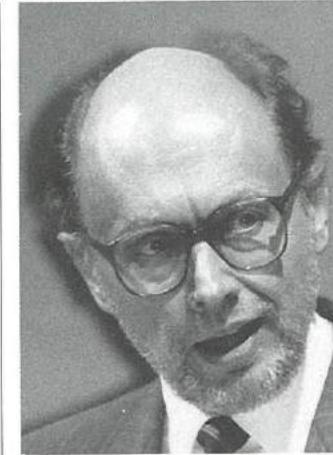
Participants

●会議に参加したパネリスト（肩書・年齢は95年12月現在）



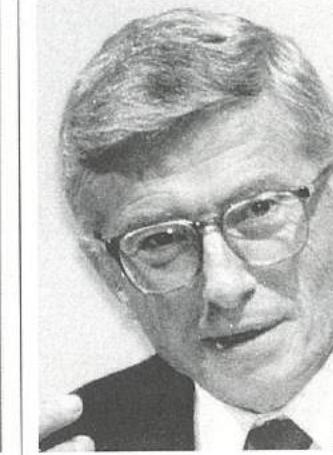
◎ガウタム・アディカリ

インドのタイムズ・オブ・インディア紙編集局長。70年代はヒンズー紙で東インドとバングラデシュを担当。インド国立銀行で国際金融に携わり、タイムズ・オブ・インディア紙では、ブッシュからクリントン政権に交代したワシントンの特派員として活躍した。世界銀行の南アジア担当を経て94年から現職。45歳。



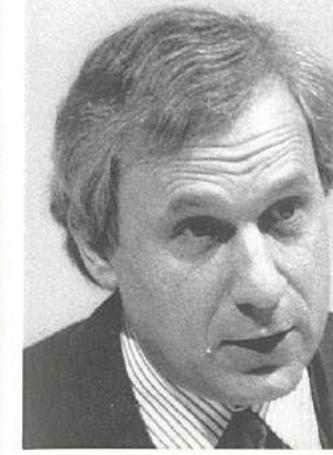
◎ペル・アールマーク

スウェーデン元副首相、エクスプレッセン紙コラムニスト。自由党の青年同盟委員長を務め、67年から78年まで国会議員。自由党党首となり、欧州の論客としても知られる。米国より優れた「欧州合衆国」をつくることを提唱し、著書の「資本主義対資本主義」は話題を呼んだ。フランス総合保険グループ（AGF）名誉会長。65歳。



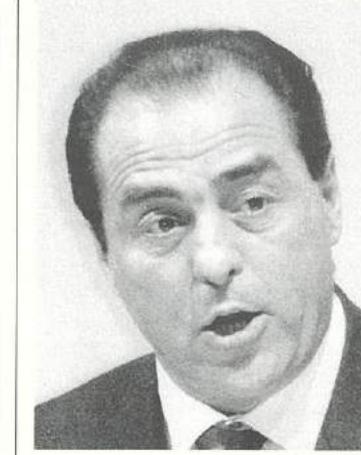
◎ミッシェル・アルベル

フランス銀行の金融政策理事会理事。仏国立行政学院卒後、欧州投資銀行理事や欧州委員会の経済構造・開発局長を歴任し、欧州の論客としても知られる。米国より優れた「欧州合衆国」をつくることを提唱し、著書の「資本主義対資本主義」は話題を呼んだ。フランス総合保険グループ（AGF）名誉会長。65歳。



◎ジャンマリー・コロンバニー

仏ルモンド紙社長。ニュースキャスターを務め、77年からルモンド紙。政治記者として活躍し、政治部長、編集局長を経て創刊50周年の94年に社長に就任。「単なる情報の見せ物ではなく、市民が時代を照合できる新聞にしたい」と紙面改革に着手し、仏マスコミを代表する人物として知られる。47歳。



◎アントニオ・ディピエトロ

イタリアのミラノ地検元検事。苦学して法学位をとり検察官になる。94年までの4年間、戦後イタリアの政治体制を揺るがした一連の汚職事件の摘発を指揮、当時のベルルスコーニ首相に捜査通告を突きつけた。その後、政治圧力に抗議してカルロカッタネオ大教授に転じ、企業論や汚職防止の実務を教えている。46歳。



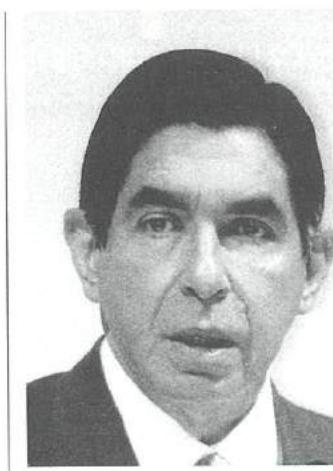
◎土井たか子

衆議院議長。同志社大法学部講師を経て、69年から社会党代議士。日本の大政党では初の女性党首として86年から91年まで委員長を務め、89年の参院選と90年の総選挙で同党躍進の立役者に。93年に憲政史上初めて女性議長に選ばれ、国会改革に力を入れるとともに、戦争責任に取り組んでいる。66歳。



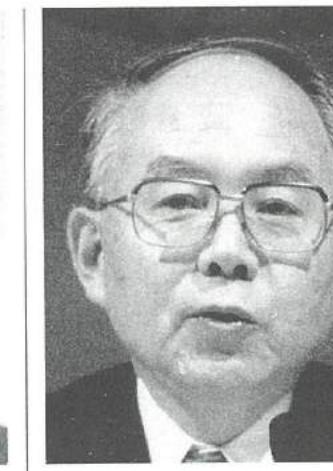
◎エドガルド・アンガラ

フィリピン前上院議長。弁護士として活躍し、81年にフィリピン大学長に就任。アキノ政権のもとで87年に上院議員に当選し、貧困を減らすため教育と保健の普及や、国立公園の拡充など環境対策に力を入れた。93年から3年近く上院議長を務め、電力不足の改善や最低賃金法の整備などに取り組んだ。61歳。



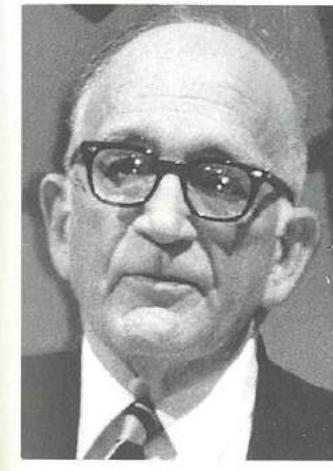
◎オスカル・アリアス・サンチェス

コスタリカ元大統領、ノーベル平和賞（87年）。政治部記者、調査研究室主任研究員を経て94年から現職。83、4年はマサチューセッツ工科大で安全保障と軍備管理を研究した。60歳。



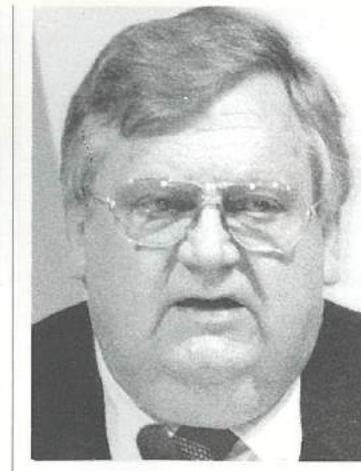
◎中馬清福

朝日新聞論説主幹。政治部記者、調査研究室主任研究員を経て94年から現職。83、4年はマサチューセッツ工科大で安全保障と軍備管理を研究した。60歳。



◎シドニー・ドレル

米国の物理学者、スタンフォード大線形加速器センター副所長。軍備管理の専門家でもあり、60年代から米政府に安全保障策を助言してきた。クリントン政権では外国情報の分析や核不拡散の分野で顧問役。冷戦時は米ソの対立回避を求める論文などを発表し、素粒子物理学の研究とともに各種の賞を受けた。69歳。



◎ローレンス・イーグルバーガー

米国の前国務長官。外交官だった27年間は主に欧州問題を担当、カーター政権下でユーゴスラビア大使、レーガン政権では国務次官を務めた。キッシンジャー元国務長官の設立したコンサルタント会社社長になったが、ブッシュ大統領に請われ92年に長官、冷戦後の「ブッシュ外交」を支えた。65歳。



◎福井謙一

化学者、ノーベル化学賞（81年）。物理学で生まれた量子力学の発想に着目、有機化学反応の仕組みを解明する「フロンティア電子理論」を発表し、ノーベル賞を受けた。京大教授を経て基礎化学研究所長。環境や人間性の問題を踏まえた科学のあり方にも発言している。著書に「学問の創造」など。77歳。



◎アーサー・ゲルム

ニューヨーク・タイムズ財團理事長、元編集局長。
ニューヨーク大在学中の44年に同紙に採用され、警察、国連などを担当後、ブロードウェイの公演を担当する演劇記者として活躍。文化担当部長などを経て86年に編集局長。著書に劇作家ユージン・オニールの伝記「オニール」など。ビュリツァー賞の元審査員。71歳。



◎バツラフ・ハベル

チェコ大統領、劇作家。
プラハの春で弾圧を受ける。77年に入権運動組織「憲章77」の創立に参加、反体制活動家として何度も投獄された。民主化運動「市民フォーラム」代表として共産党政権崩壊の立役者となり、89年12月にチェコスロバキア大統領に就任。93年のスロバキア分離後の初代大統領。59歳。



◎平山郁夫

日本画家、東京芸術大学長。
大戦中に広島で被爆し、後遺症で苦しんだ20歳代後半に仏教と出逢う。その心理体験をもとに描いた「仏教伝来」で注目され、60年代から仏教やシルクロード、平和を題材にした作品を発表、日本芸術大賞を受ける。シルクロード周辺の文化財の保護に力を入れている。65歳。



◎デービッド・ケイ

国連イラク核查察団元団長、ヒックス社副社長。
米国のウィスコンシン大教授を経て、核の安全対策などの分野で国務省の作業に携わった後、80年代は国際原子力機関(IAEA)の分析主任として原発の安全策に取り組んだ。湾岸戦争後にイラクの核製造能力を調べる査察団を率い、核兵器の組み立て現場を調べた。55歳。



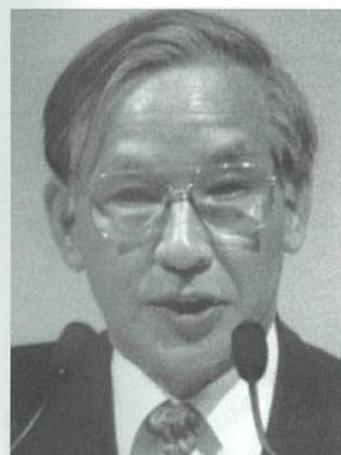
◎テッド・コッペル

米国のABCテレビ「ナイトライン」のアンカーマン。
ナチスから英国に逃れたドイツ難民の家庭に生まれ、13歳で米国へ移住。63年にABCに入り、70年代はキッシンジャー国務長官の中東外交を密着取材し、80年からナイトライン担当。5千人を超える世界の要人にインタビューし、鋭い切り口で知られる。55歳。



◎カトリーヌ・ラリュミエール

フランスの政治家、欧州議会議員。
パリ大で法学の講師を務め、社会党執行委員として政治活動に携わる。80年代はミッテラン政権のもとで、消費者問題や欧洲担当相を歴任。欧洲統合を進める欧洲会議の事務局長を務め、94年に欧洲議会の議員に当選、人権問題などに力を入れている。60歳。



◎ダン・フー

ベトナム科学・技術・環境相。
50年代から60年代にかけて、中国や旧ソ連で道路、橋梁建設を学んだ。ハノイ建設大学学部長を経て、南北統一後のホーチミン市工科大学学長。92年から現職。環境法の制定に尽力し、コンピューター通信などを担当する情報技術国家計画局長も兼任。63歳。



◎クロード・ジャスマン

フランスの医学者。
パリ大の教授で、血液、免疫、じゅよう生物学が専門。国際的な医療倫理の向上に積極的に取り組んでいる。医療技術の進歩と社会の調和をめざし、92年に「世界の健康を促す国際評議会」を設立、初代会長に就任した。エイズやがん関係の著書が多く、さまざまな賞を受けている。56歳。



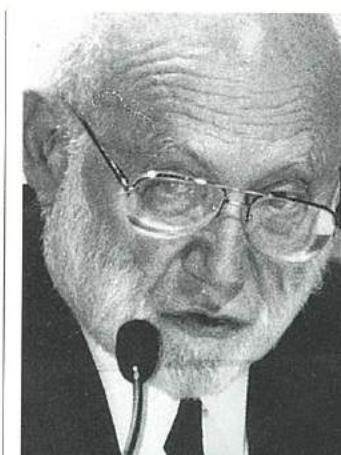
◎神塚明弘

朝日新聞東京本社編集局長。
社会部記者、論説委員を経て東京本社の社会部長、編集局次長。94年から現職。56歳。



◎ジャック・ラング

フランスの元文化相、中仏のプロワ市長。
ナンシー大で国際法の教授を務め、60年代にナンシー世界演劇祭を創設。社会党書記の顧問を経て、故ミッテラン大統領の側近として93年まで文化や教育担当相を務めた。ジャズや写真、料理、ファッション、設計など進歩的な文化政策に力を入れ、幅広い支持を得た。56歳。



◎ジョシュア・レーダーバーグ

米国の遺伝学者、ノーベル医学賞(58年)。
スタンフォード大教授を経て、90年までロックフェラー大学長。微生物の専門家で、大腸菌の遺伝子組み換え現象を共同発見し、バクテリア遺伝学の道を開けた。その後も微生物を通してがん細胞などの研究に貢献し、細菌遺伝学の基礎を築いた。70歳。



◎マーガレット・レーダーバーグ

米国のコネル大学医学部教授(精神医学)。
ニューヨークのスローン・ケタリング記念がんセンター、ニューヨーク病院で精神医学者として勤務。パリ生まれ。55年に米国に帰化。エール大医学部卒。ノーベル医学賞のジョシュア・レーダーバーグ博士の妻。58歳。



●レオン・レーダーマン

米国の物理学者、ノーベル物理学賞（88年）。原子核の研究で、陽子と中性子が衝突する頻度をつきとめ、原子の内部を観察する方法を導いた。陽子などをつくるクオータクの解説にも貢献し、フェルミ国立加速器研究所長を経てシカゴ大教授。途上国の研究者の育成に力を入れている。73歳。



●李寿成

ソウル大総長。（現首相）ソウル大法学科を卒業して同大で教壇に立つ。70年代にパリ大などの交換研究員を経て、ソウル大法学院教授を務め、95年にソウル大総長になった。95年12月、金泳三大統領に請われて首相に就任した。89年まで韓国刑事政策学会の会長。最近は韓国刑事政策研究会の理事と、韓国被害者学会副会長として活動している。56歳。



●ジャック・ル・ゴッフ

フランスの歴史学者。幅広い視点から歴史を解明し、時代背景を検証しながら人々の生活の実態に迫る「アナール派歴史学」の代表的学者の一人。パリの国立科学研究院を経て、社会科学高等研究所院長に就任。著書に「中世の知識人」「煉獄の誕生」「中世の想像界」「中世の高利貸」など。71歳。



●宮澤喜一

元首相。大蔵省で池田蔵相の秘書官となり、池田内閣の「所得倍増計画」の参謀役を務めた。67年に参院から衆院へ。自民党政権のもとで経企庁長官、通産相、外相、蔵相を歴任、91年から93年まで首相。平和理念と合理主義に立つ国際経済の政策を通して欧米の政治家、経済人と幅広い交友をもつ。76歳。



●森嶋通夫

経済学者、ロンドン大名誉教授。京大卒後、阪大教授を経て70年にロンドンに移り、88年まで教授。マルクスと新古典派の成長理論を数学的に解明し、国際的に活躍する日本人経済学者の先駆に。国境を超えた柔軟な視点から、政治、外交、教育など幅広く日本の針路を提言している。著書に『イギリスと日本』など。72歳。



●コチエリル・ナラヤナン

インド副大統領。苦学して大学を卒業、教員やジャーナリストなどを経て職業外交官になる。東京、ロンドン、オーストラリア大使館勤務を経て、67年に駐タイ大使に。その後、トルコ、中国の大使を歴任。80年、駐米大使。92年8月に被差別カースト出身者として初の副大統領に就任した。75歳。



●ジャンマリー・レーン

フランスの化学者、ノーベル化学賞（87年）。「クラウンエーテル」という炭素と酸素でつくる物質が特定の分子を捕まえることに着目し、人工の物質で再現してみせた。海水ウランの回収や薬学にも応用できる業績となり、血液分析など基礎科学に貢献した。79年からコレージュ・ド・フランス教授。56歳。



●ウォルフ・レベニーズ

ドイツの社会学者、ベルリン自由大教授。18世紀以前の欧洲知識人や自然科学史を通じて社会の構造を解明した。冷戦後、ハンガリーに世界各国の若手学者を集めた研究所を設立、欧洲の学者の育成に取り組んでいる。最近はイスラエルとパレスチナの研究者の交流を促すなど中東和平にも力を入れている。54歳。



●メイリード・マグワイア

英国・北アイルランドの平和運動家、ノーベル平和賞（76年）。ビール会社の秘書時代に、北アイルランド紛争で妹の子ども3人が死んだことをきっかけに、平和運動組織を結成。大規模なデモ行進を展開し、非暴力を訴えた。その後も、東ティモールなど各地の人権侵害に反対する運動に取り組んでいる。51歳。



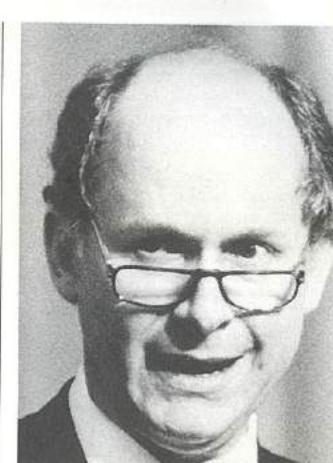
●西和彦

アスキー社長。大学2年のとき、仲間二人とパソコン雑誌の出版社を設立。その後、米マイクロソフト社のゲイツ会長と親交を深め、提携して急成長した。日本製パソコンの基本ソフトや言語の多くを開発し、提携解消後も半導体開発などで注目された。情報通信などで米政府にも意見を求められている。39歳。



●大江健三郎

作家、ノーベル文学賞（94年）。東大在学中の57年に「奇妙な仕事」で注目され、翌年「飼育」が芥川賞に、「個人的な体験」「万延元年のフットボール」などを発表。占領体験や戦後民主主義教育、被爆者とのかかわりなどを背景に、核時代をいかに生き延びるかを問い合わせている。近著に「燃えあがる緑の木」。60歳。



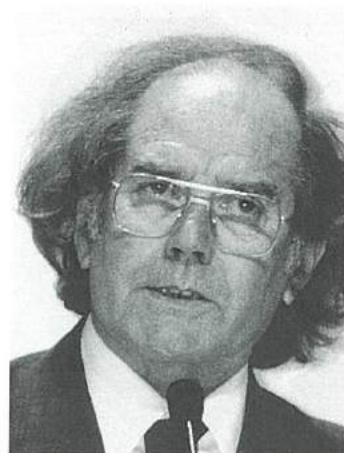
●マヌエル・エルキン・パタロヨ

コロンビアの医学者。米エール大やロックフェラー大などの客員研究員を経て、コロンビアの首都サンタフェデボゴタに研究所を設立した。難病であるマラリアのワクチンの研究で注目され、マラリアに悩む中南米諸国から賞を受けるとともに、アフリカ、アジアの国々からワクチン製造の依頼を受けている。48歳。



◎グンター・パウリ

国連大学の学長顧問。
ベルギー人で、聖イグナチオ大学を卒業。
欧洲ビジネスプレス連盟事務局長を務め
た後、ヨーロピアン・サービス・インダ
ストリーズ・フォーラム社、エコバー社
の社長を歴任。94年から現職。著書に、
ローマクラブ創設者アウレリオ・ベッ
ィーの伝記「未来のための戦士」など。
39歳。



◎アドルフォ・ペレス・エスキベル

アルゼンチンの彫刻家、ノーベル平和賞
(80年)。
ラプラタ大教授を経て、70年代から「平
和と正義の奉仕協会」会長などを務め、
軍事政権の彈圧が続いた中南米諸国で平
和と人権運動を続けていた。近隣諸国か
ら入国禁止処分を受け、母国でも77年に
投獄されたが翌年釈放された。画家でも
ある。64歳。



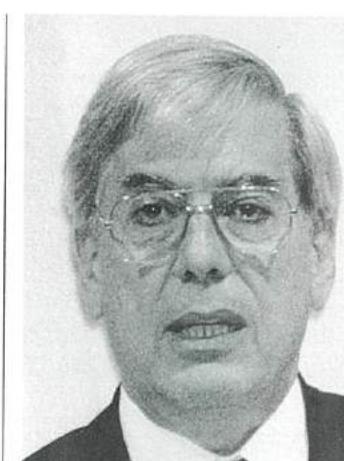
◎ヘルベルト・ブンティク

デンマークのボリティケン紙の元編集局
長。
大戦中はナチの弾圧から国外へ逃れ、戦
後はコペンハーゲン大卒後、ユダヤ人権
運動やイスラエルの建国に携わった。50
年代は同国の労働省に勤務し、デンマー
ク放送の特派員を経て、65年にボリティ
ケン紙へ。93年まで編集局長を務め、最
近は中東報道を担当。68歳。



◎ジョン・シルバー

米国の哲学者、ボストン大学長。
カントの研究で知られ、テキサス大で教
べんをとるかたわら、「死刑を廃止するテ
キサス協会」の初代会長を務めた。社会
政策や外交方針への提言も多い。71年に
学長になったボストン大では財政の改善
と研究活動の拡充に力を入れ、90年は民主
党からマサチューセッツ州知事選に出
馬した。69歳。



◎マリオ・バルガス・リョサ

ペルーの作家、国際ペンクラブ元会長。
ラテンアメリカを代表する作家のひとり。
「都会と犬ども」「緑の家」「世界終末戦
争」などで知られ、40歳で国際ペンクラ
ブを代表した。ガルシア大統領が銀行國
有化を打ち出したことに反発し、「自由主
義を守れ」と90年の大統領選に出馬した
が、フジモリ氏に敗れた。59歳。



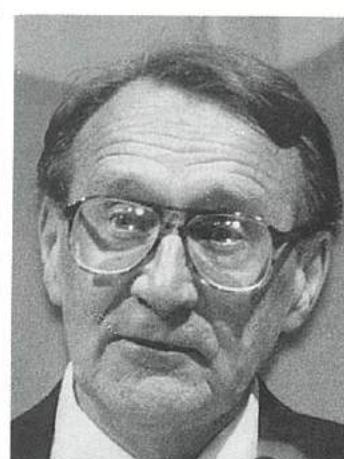
◎ローズマリー・ライター

英国のタイムズ紙論説委員長。
ケンブリッジ大卒。マー・イースタン
・エコノミック・レビュー誌副編集長、
サンダー・タイムズ記者などを経て、タ
イムズ紙へ。著書に「失われたユートピ
ア／国連と世界秩序」「誰のニュースか、
政治、言論と第三世界」など。ロンドン
の国際戦略研究所などのメンバーでもあ
る。52歳。



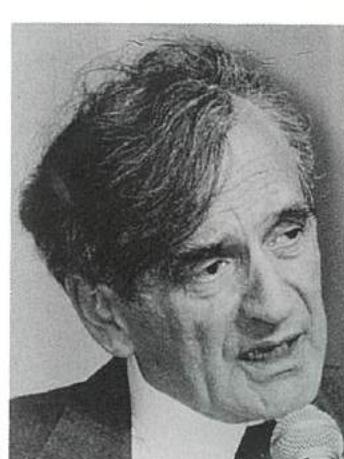
◎エイ布拉ハム・ローゼンソール

ニューヨーク・タイムズ紙コラムニスト、
元編集局長。
ニューヨークの大学生だった40年代に同
紙の記者に採用され、インド、ボーラン
ド、スイス、東京特派員を歴任。ボーラ
ンドから国外退去となったが、一連の報
道は60年のビュリツァー賞に。名コラム
ニストとして知られる。73歳。



◎ロアルド・サゲターエフ

ロシアの物理学者、ロシア宇宙研究所名
誉所長。
核融合の研究で注目された後、70年代か
ら金星やハレー彗星など宇宙探査をて
かけた。80年代はゴルバチフ氏の顧問
となり、科学政策や環境などの分野でも
知られる。90年にアイゼンハワー元米大
統領の孫、スザン・アイゼンハワーサ
ンと結婚した。63歳。



◎エリー・ウイーゼル

米国の作家、ノーベル平和賞 (86年)。
ルーマニアに生まれ、大戦中はアウシュ
ビツツ収容所に入れられ、両親を失う。
パリ大で学び、56年に渡米、ボストン大
などの教授を務め、収容所体験をもとに
「夜」「夜明け」「昼」の三部作などを発
表。ウイーゼル財团を設立、世界各地で
平和を訴えている。67歳。



◎吳樹青

北京大学長。
政治経済を専攻し、中国人民大の経済学
部副部長、教授を経て、89年に北京大の學
長に就任した。國の最高機関である第八
期全国人民代表大会(全人代)で金融經
済問題委員会と常務委員会のメンバーと
なった。中国国際交流開発協会の副會長。
近著に「中国のマクロ経済政策」「政治經
済」など。63歳。

「注」

●会議参加者として、デビッド・ハンバーグ夫
妻が来日し、東京会議は傍聴したが、広島会議出
席のため広島に移動したあと、休憩をくずし、会
議に参加できないまま帰国した。デビッド・ハ
ンバーグ氏(70)は米国の精神医学者で、カーネ
ギー・コボレーション会員。ハーバード大教授
などを歴任し、核戦争を防ぐための教育にも取り
組んでいる。夫人のペトリクス・ハンバーグ女
史(72)は医学者で、ウィリアム・グラント財團
理事長。ハーバード大教授などを経てマウント・
サイナイ医学校教授。

●ミャンマー(ビルマ)の民主化運動の指導者で、
ノーベル平和賞(91年)受賞者のアウン・サン・
スー・チー女史(50)は、「希望の未来」国際会議
への出席を切望しながらも、ビルマを一度出國す
ると帰国を阻止される恐れがあるとして、衛星中
継によるビデオ参加を計画したが、許可されず、
結局、会議にメッセージを送る形の「参加」とな
った。

●このほか、時間的制約などから会議への出席は
できなかつたが、インターネットを利用して、イ
スラエルのシモン・ペレス首相、南アフリカのネ
ルソン・マンデラ大統領、そして、米国のジミー
・カーター元大統領が会場のスクリーンに生中継
で登場し、討論に加わった。



○インターネット会議 プレトリア—広島—アトランタ

司会=テッド・コッペル (米ABCテレビ・アンカーマン)

エリー・ウイーゼル (ウイーゼル財団理事長)

ジミー・カーター (元米大統領)

ネルソン・マンデラ (南アフリカ大統領)

「新たなコミュニケーション技術の紹介」/西 和彦 (アスキー社長)

コッペル それでは、西さんから、この魔術を紹介してもらいたいと思います。これは西さんのアイデアになるプロジェクトですから、西さんから、これがどう作動するのかを説明してください。事によったら、なぜそうなるのかわかるかもしれません。

西 よくおいでくださいました。今回は、さつきよりはうまくいくことを希望しています。しかし、手品というのは、必ずしもいつもうまくいくものではありません。50人の参加者がおられますけれども、その中で、私が一番年少だと思います。なぜかといいますと、2つ理由がありますが、最初は、まずはインターネットが使える、だから、私がここにいるわけです。これが希望の未来、コミュニケーションにおける希望の未来だと思います。私、インターネットを盛んに広めようとしてまいりました。平和のための対話の手段としてです。第2の理由は、私はここに集まっている中で、ただ1人のビジネスマンだと思います。20歳で会社を始めました。そして、自分の仕事として伸ばしてきたんですけれども、ビジネスとはビジーであることですが、ビジーである、

忙しいということは、夢とアイデアを現実にするのに忙しかったのです。これがエグゼクティブ、経営者の意味だと思います。もしアイデアがただアイデアでとどまるならば、何ら行動が伴わない場合ならば、それは白昼夢と呼ばれるものです。

そんなわけで、始める前に、まずエリー、マリオン・ウイーゼル夫妻にお礼を申し上げます。エリー・ウイーゼル財団に、そしてセイラーさん、それから中江朝日新聞社長にお礼を申し上げます。ご親切に私をお招きくださいました。また、テッド・コッペルさんにもお礼を申し上げたいのです。私のパートナーとして、第1回の世界で初めてのインターネット・ベースのオンライン会議を開くことが、彼の協力で可能になりました。

きょうの午後のペレス首相とのビデオ対話の後で、コッペル夫人が私にこう言われました。絵がよくない、画像が悪いと。それはテレビの放送のごく最初のころみたいだと言われました。そして言葉を続けて、コッペル夫人は、画像を見ていて、これが新しい時代の幕開けだな、新しいメディアの幕開けだな

ということを感じたと言っておりました。インターネットの幕開けです。ですから、ここで簡単に我々が何をやったか、この会議のために何をやったかをご説明したいと思います。

右側の画面に映っているのが、一番よく売れているソフトウェアの名前です。私、名前は言いたくありません、あえて。アメリカで一番金持ちの男がやっているわけです。これは大変有名な世界的に売られているパソコンです。スタートのキーを、左の下のほうにあるのを押しますと、インターネットにつながります。ネット・スケイプ・ナビゲーターというポピュラーなソフトウェアがあります。朝日新聞のインターネット・データベースにこれがつながっています。朝日データコムです。朝日がニュースを提供いたしますが、紙の上だけでなく、電子的に提供しています。これは世界のどこからでも無料でアクセスができるのです。もちろん、朝日だけではありません。ニューヨーク・タイムズ、その他、有名な新聞がこのアクセスを相当前から提供しています。しかし、私が今ここでやったのは、それに加えて、動く絵を提供するのです。どのようなパソコンでも、自宅のパソコンからこれが得られるのです。

この希望の未来の議題をこういうふうに載せました。この情報にインターネット・データベースにアクセスをされると、ワールドワイド・エープと呼んでいますが、ボタンを押すと、あなたの指先一つでこの会議の情報にアクセスができます。例えばソフトウェアですが、これをクリックすると、動く画像にアクセスができます。とっても易しいというわけでもありませんけれども、これは時間の問題です。モデルTのフォードの自動車みたいなものです、1940年代の初めごろの。この画像にソフトウェアが無料でネットワークに配布されるのです。ですから、だれでもこのソフトウェアをお使いの方は、インターネットデータベースにアクセスをすれば、この会議の初めから全部PCで見られます。我々の推定によれば、今まで始まってから、この3日間に、約50万人の人たちがこのアクセスをしていると推定しています。そんなわけで、我々、世界的にもう既に有名になっちゃっているんです。こういうふうに見えるわけですね。

こうしたモーション・ビデオ、ネットワーク上のモーション・ビデオというのは、この種のもので世

界で初めてなのです。さあ、そこで、ほかの場所に行ってみましょうか。きょう6つ議題が出ました。これがきょうの議題です。テッド・コッペルさん、そこにクリックしてくれますか。そうすると、テッド・コッペルさんのことについて、彼がどんなことをやってきたか、ビジネスがどうのと出るわけですね。インターネット、データベースでこれがワールドワイド・エープと呼ばれるもので、大変好評です。このようなインターネットのケーバリティができましたので、コンピューターがネットワークに接続されることになったわけです。そうすると、コンピューターがすべての家にある電話やテレビと同じになります。電話機、これはネットワークですから。テレビ、これもまたネットワークになるわけですから。

それでは、私の発表に入りますが、お許しいただいて、ここからは日本語でやりたいと思います。というのは、私は東洋的な考え方を述べたいので、日本語で話させてください。

マスメディアとインターネットの違いについてからお話を始めたいと思います。

神戸の地震のときに、マスメディアは、死んだ人の名前を生きている人に知らせるためにたくさん放送しました。ところが、インターネットは、生きている人のメッセージを生きている人がやりとりをするのにたくさん使われました。つまり、インターネットは電話のようにパーソナルなメディアであります。しかし、パーソナルという意味の1対1ではなくて、同時にその会話はたくさんの人間に伝えることができるわけでありますから、パーソナルという部分とマスという部分が、同時に存在しているパブリックメディアであるというふうに思います。私は、これがこれから世紀の希望のメディアであるということを信じて疑いません。

私は、人を非難したくありません。非難をしなければ、戦争もありません。つまり、相手に対する理解があれば、戦争はありません。対話が大切だと思います。この対話を私はインターネットを使って実現したいと思うのです。世界の大きな戦争から小さな争いまで、その多くは争いという形の自己主張がありました。勝敗によって是非を図る姿勢によって、争いが生まれてきました。争いの中から、平和を見つけ出すためには、まずお互いのことをよく理解す

る必要があります。その上で、当事者同士の多くの対話が必要なときがきます。歴史的に紛争の解決のプロセスには必ず対話がありました。争いの最後は必ず対話で終わっています。湾岸戦争もしかし、ボスニアもしかし、みんな最後は対話をするようになるのです。それならば、最初から対話をすればいいではないですか。しかし、対話のチャンス、手段が少ないので、一度争いが始まってしまったら、すべてが大変にややこしくなってしまいます。インターネットは対話のチャンスを拡大する。1対1の対話は、より深い理解が得られます。どうせお互いに同じことを考えているのだから、反感を持つこともなく、理解を深めることができます。

つまり、お互いにいろいろな守りの体制を維持するために、自己主張を強めて争いになるわけです。対話をすればするほど、争いは少なくなるのではないかでしょうか。今後の私たちは、対話によってお互いの個性や違いといったものをさらに理解し合い、お互いを尊重することによって平和を求めていかなくてはならないのではないでしょうか。私は21世紀には地球を覆う通信網であるインターネットによる新しいコミュニケーションの手段により、文化や習慣や宗教や政治や経済の差異を超えた会話が、平和を実現していく手段として期待できるというふうに考えています。東西の問題についても、インターネットは重要な役割を果たすと思います。文化の違う東洋と西洋がお互いに理解を深めるためには、やはり距離を超えるための情報通信が必要となります。これはインターネットの大きな課題です。

南北の問題の指摘がきのうありました。私は、南北の問題よりも、もっと重要な問題にコンピューターを、インターネットをアクセスする人とアクセスしない人の違いの問題が大きく出てくると思います。若い人はみんなオーケーです、インターネットを使います。小学校と中学校と高校で全員に無料でインターネットを使おう、使わせようという試みが各々で始まっています。ところが、大人は2つに分かれます。これが大きな問題です。子供が親にインターネットを教えるということがおそらく起こるでしょう。テレビを見ない人はたくさんいますが、車を運転するとなれば大きな違いが生活に出てきます。インターネットを使うのと使わないのという違いは、そういう形で出てくると思うわけです。次の世代の

子供たちにはインターネットは非常に興味を持たれています。だから、子供たちが世界中の言葉を理解することができるようになれば、私はそういうことを国連大学で研究員として始めていますが、そうすると、子供たちは、おそらく昔の子供たちはこんなことを、つまり、つまらない戦争をやっていたんだなというふうに思うようになるでしょう。

大きな平和、小さな平和ということと対話ということについて考えてみたいと思います。家族の中での対話、これはだれもが身に覚えのあることだと思います。国同士の戦争に比べれば、小さいかもしれません、家族に対話がなければ、家族の争いになってしまいます。私は、この小さな、でも大切な平和を私の妻から学びました。

インターネットによる新しいコミュニケーションの確立のために、克服しなければならない問題が存在しています。それは、コミュニケーションにおける新しい誤解という危険です。ネットワークのコミュニケーションにおいて、もし心が通っていない対話が行われれば、新しい誤解、意識のズレが発生します。心は決してそうだとは思っていなかったとしても、その仲介者であるインターネットを介して、相手に伝わったときに、相手がどのように解釈するか、必ずしも一通りではありません。では、何が必要なのでしょうか。それは、インターネットによる心を添えた新しいコミュニケーションが必要な対話です。心からの対話が我々に必要なのです。

ということで、今からインターネットの会話を始めたいと思います。(拍手)

ウイーゼル マンデラ大統領閣下、聞こえますか。聞こえますか。大統領閣下、聞こえますか。

マンデラ ええ、聞こえますよ。

ウイーゼル ありがとうございます。お声を聞いて大変うれしいです。私ども、希望の未来という国際会議のために集まっています。私の隣にいるのがよき友人であり、大統領閣下にも何度もお目にかかるお話をされた方です。

マンデラ テッド・コッペルさんですね。

コッペル 大統領、お目にかかるて大変うれしいです。

マンデラ ええ、楽しみにしておりましたよ。

コッペル 古い友人ですよね。よく覚えていてくださいました。今、新しい道具を使って何とかやろう

としているのですけれども、よく聞こえますでしょうか。我々も見えますか。

マンデラ いや、よく聞こえますよ、よく見えますよ。

コッペル 今、ちょうど接続をしているところで、ちょっと問題がありそうです。ちょっと待っていただけますか。

実は、カーター元大統領との接続もアトランタでしょうとしております。さて、我々は今ここに、広島に来ております。そして、希望の未来という国際会議を開催しております。カーター元大統領につながる前に、今、エリー・ウイーゼルさんと私は2日前にこう話をしていたんです。マンデラ大統領とお話しできるということで、これまで長年マンデラ大統領閣下はずっと監獄に入れられていた、大きな痛みと苦しみを経験してきたわけです。南アフリカでアパルトヘイトずっと苦しんでこられたわけですが、ボスニアでいまだに紛争をしている人々に何かアドバイスできますか。カーターさんもつながったようです。

今、カーター元大統領との接続をしようとしているところであります、申しわけございませんが、今聞こえたかもしれませんけれども、また懇意期にある新しい技術、全く新しい技術を使ってやろうとしているわけです。歴史上、初めてであります。ヨハネスブルクとアトランタを同時につなぐ、そして広島の3極がコンピューターでつながっているわけです。これは初のインターネット会議であります。44万、あるいは45万人の人が今、コンピューターのターミナルの前に座って、今や私がばかなことを言うのを待っている、心待ちにしているというところでしょうか。聞こえますか、大統領、聞こえますか。

カーター ええ、よく聞こえますよ。

コッペル ちょっと単純な問題があるんですけども、電話番号がきちんとわかっていないんですね。正しい電話番号がわからないという非常に単純な問題なんですね。

カーター 私もばかげたこと、間違いをやるのを樂しみにしていらっしゃるということでしょうか。

コッペル いえ、この歴史的な会議に臨めて、大変うれしく思っておりますよ。我々大変楽しんでおります。ただ、もう9時を回っておりまして、広島県

などの非常にご親切な主催により、夕食をとらせていただいたばかりです。こちらはごちそうをいただいたのですが、そちらは朝食でしょうか、朝ご飯でしょうか。

カーター 私、大変興奮しております。エリー・ウイーゼルさんやテッド・コッペルさん、それからマンデラ大統領とお話しできるのを大変楽しみしております。このような形で参加できること、大変うれしく思います。これがきっかけとなって、これからも何度も何度もこのような会議を開かれることを期待しております。

コッペル 最初の本を書くためにワープロを使ったということですね。それで、もう食べちゃったと、数枚分食べちゃったと聞きましたよ。それで新しい技術を使おうとしますと、時に我々、うまくいかないということもよくおわかりですよね。マンデラ大統領、まだ聞こえますか。

マンデラ ええ、聞こえています。

コッペル 申しわけありません、非常に失礼ではありました。お邪魔してしまいました。お答えを今、ちょうどいただこうとしていたところなんですけれども、いろいろアドバイスをいただきたいということです。ボスニアの内戦で苦しんでいる人々、そしてお互いが和平に到達するためには、どういうアドバイスがいいと思われますでしょうか。何かアドバイスをしてください。

では、先ほどの答えを繰り返しましょうか。大統領、恐れ入りますが、ぜひよろしくお願ひいたします。

マンデラ 私ども南アフリカにいる者は、実際に最も困難な問題を直視し、そして解決することに成功いたしました。もちろん、これらの問題解決は大変困難だとは思います。ただ、ちゃんと一つの場所に集うことができれば、結局、我々のライバルは問題を解決せざるを得ないということを考えたわけです。そして私どもは、相手側の言い分にも耳を傾けることができました。地球上の問題は、結局、このような形で必ず解決できると私は確信しております。

ボスニアの問題ですけれども、ぜひこのようなアプローチをとっていただければと思います。決して私の発言、傲慢と思われたくないんですけども、私の今申しましたアドバイス、そして南アにおける経験に基づいて、アドバイスに耳を傾けていただけ

ればと思います。私は謙虚にこの意見を提示したいと思うのです。

コッペル マンデラ大統領閣下は、アパルトヘイトを終わらせるに成功いたしました。これは私どもにとって大いなる喜びがありました。それと同時に、大いなる希望を抱かせてくれました。そこで、質問です。アパルトヘイト時代、実際にある特定の層が別の層に対して課してきたその苦痛という、また、苦痛と苦難に満ちた記憶に対して、どのように対処されたのでしょうか。また、拷問を行ったり、ないしは殺りくを行った層の立場はどうなるのでしょうか。彼らを許されるのですか、あなた方は。どういう形でこういった異なる立場の人々の理解を調整されるのでしょうか。

マンデラ まず私どもは基本的な原則を貫きました。そして、相手側とさまざまな関係者と交渉に当りました。また、私どもと同じ内部におきましても、調整を図りました。実は、25も異なる政党といいますか、異なる政治的な立場を持つ関係者が集まったわけです。それぞれ政治的な背景は全く違いました。しかし、過去は決して忘れる事はない。しかし、やはり将来に目を向けようではないかということでおの立場は一致したのです。すべての南アフリカ人、一人一人が何らかの形で貢献をする、そして国づくりに参加するという意欲があったのです。

そして、国における和解を図るという気持ちに満ちてありました。これはおそらく南アフリカ人、全員一人一人が抱いていた意ではないかと思います。だからこそ、今日、我々はまさに奇跡に近い状況が達成できたのです。これは交渉の結果、得られた奇跡です。今、国づくりの過程にござりますけれども、これはまさにすべての関係者、旧敵対関係にあった人間たちも同じような共通の目標を抱いております。端的に言えば、あなたのおっしゃった問題解決はこのような方法で十分対応できると思っております。

コッペル カーター大統領、お姿は見えないんすけれども。

カーター いや、別の線で入ってくるんじゃないでしょうかね。でも、お声は聞こえますよ。ちょっと手伝ってくれる人がだれもいないんですよね、若い人がいるんですけども、電話番号がわからないと言うんですよ。ですから、声が聞こえればいいで

しょう。私の顔が見えるよりは、声のほうが大事でしょう。

コッペル いえ、あなたのお声が聞こえる限りいいと思うんですけれども、技術の実験ということで。それでは質問をしたいんですけども、我々はあしたの朝、広島で講論をすることになっております。それを先取りしてお聞きしたいと思うんですけども、コミュニケーションの性質ということについて議論をすることになっております。衛星技術があるということによりまして、すべてスピーディーになりました。ものすごいスピードになりました。今ではインターネットというものがありますので、もうコンタクトのレベルというのはものすごい量で増えているわけです、世界的に。そこでちょっとと思うんですけども、カーター大統領、あなたのお考えをお聞かせください。新しい技術というのは、プラスの面もマイナスの面もあると思うんですけども、意思決定プロセスにおいて、プラス、マイナス、どういうものがあるでしょうか。

カーター 一番大きなこと、特に和解と平和に対する障害ということ、また、憎悪を克服するための障害というのは、敵とコミュニケーションができるかどうかということにかかっていると思うんです。そして、それをする能力があるかどうか、しかも電子的にすることができるかどうか、実際に会おうと思っても、なかなか大変なわけです。和平会議をしようとか、直接交渉をしようとしても難しいわけですので、電子的にできれば、これは大きな一步だと思います。

私は東アフリカのルワンダ、ブルンジのそういうところの方々と会ったりしたんですけども、やはり、たとえ集まつたとしても、なかなか難しいわけです。コミュニケーションをするということは難しいわけです。モブツ大統領というのは、隣国の人たちと何年も話したことがないという状況にあるわけです。ですから、そういう人を一堂に会すということで、お互いにとても成功裏に会合を持つことができて、共通の理解に到達することができました。ルワンダの人たちも、ザイールの人に敵意を持っておりました。なぜならば、200万人の難民が故国に帰ることができなかつたからであります。そして、我々は5カ国が元首レベルで会って、会合を開くということがカairoでできました。そこでも

合意をすることができたのであります。

そういうことが電子的にもしできるならば、お互いに顔を見合えないかもしれませんけれども、もし電子的に会合をすれば、5人ぐらいの人が同じことに関しまして合意をすることができるかもしれません。あるいは、モブツ大統領を中心にして会うということも電子的には簡単にできるかもしれません。

ですから、将来の技術の実験というのは、けさやっておられることというのは、ほんとうにプロセスを迅速化するのではないでしょうか。そしていろいろな差別の違いの和解ということで、とても役に立つと思います。

コッペル 画面にだんだん見てまいりましたよ、大変な進歩ですね。ちゃんと見てまいりました。あなたをビジュアルに、声だけでなくて歓迎できて、とてもうれしいと思います。

それでは、私がウィーゼルさんに司会を引き継ぐ前に、マイナス面はどうでしょうか。衛星技術があるということが発し出す問題というのは、民主主義国家における有権者というのは、どうしても同時的に、あるいはものが起こるよりも前に、意思決定するよりも、もっと前にいろいろなことを知っていたりするあります。それに対して、リアクトをしなければいけない、そしてそのリアクションに対して、責任を持たなければならないわけですが、衛星技術というのはどうでしょうか。政策立案者の人生は難しくなるでしょうか、衛星技術のせいです。

カーター 当然ながら、即時的にニュースが報道される世の中になっております。まさにサウンドバイトということで、言ったことのほんの一部だけが報道されてしまうということで、どんどん悪い方向に物事が走っていったりします。これがとても大きな問題だと私思います。

往々にして起こることすれども、敵対する関係にある人がいて、例えば、海を隔てたところにいる。そして、いろいろなニュース報道がなされる。あなたの敵はこんなこと言っていますよ。あなた、それにどう答えますかと聞かれる。ほんとうに短い一言でしか聞かせられない。実は、もっと長いこと、プラスのことを言ったかもしれないのに、生産的なことを言ったかもしれないのに、その短いところだけ取り上げられて、そしてそれが相手方に伝わって

しまう。そして、それがまたかもほんとうの会話のようにとられてしまう。マスコミにおきましては、結局は一番おもしろい、一番鋭い、そして一番ニュースになるような、とんでもない発言だけが報道されたりするのであります。そして、それに対して、反応してしまうということで、ほんとうはポジティブな話だったのに、それが悪い方向にいってしまうということはあり得ると思います。

ウィーゼル マンデラ大統領閣下、希望を失ったことはありますか。そして、もし希望を失ったとするならば、いつのことでしょうか。監獄に入れられていたときですか、それともそれを出たあとですか。そして、ようやく解放され、自由の身になった。そして、あなたの國の大統領になった。それでもまだ解決できない問題が残っている、説得できない人がいる。そして変えられない状況があるというときに、希望を失われたんでしょうか。

マンデラ 国づくりの過程で、我々が出会うことは、これは、いわば冒険のようなものであります。特に、これまで熱意を持って国づくりのために誠心誠意努力をしてきた人々のことを考えますと、やはり一夜にして問題は解決できないということあります。我々は目をみはるような驚異的な前進を見てまいりました。そして、はっきりしていることは、こういった人たちの努力がなければ、このように効果的に、そして素早く国づくりはできなかつたであります。人々もこの点について十分納得していなかつたとするならば、このような大変なことはなし遂げられなかつたであります。そして、何が起こっているのかということを十分理解していかなければ、そして関心を持っていなければ、そういう情熱もわいてこなかつたであります。私たちがこのようなプロセスを始められたということ、そして南アフリカ人、黒人、白人、全員一人一人が、若い者も、そして年老いた者も皆が現実をしかと見定めて国づくりに励んできたからこそであります。

もちろんいろいろな問題があることはわかっております。ほかの南アフリカの人々を説得できない問題もあります。しかしながら、常にオープンマインドで事に当たらなければならぬ。この1年半、しかし、それでも前進を見てきた。いわば奇跡に近いようなことが起つたのです、実現したのであります。このプロセスを振り返ってみると、ようやく

新たに生まれ変わった国があらわれつつあります。1人や2人ぐらいは反対の人もいるかもしれません。**ウィーゼル** マンデラ大統領、あと数分で席を立たれなければならないのはよくわかっておりまます。さて、南アでは、ようやく警察の幹部、そして軍の幹部を裁判にかけようとしております。これらの人々は残虐な行為をしたという告発がなされております。これはアパルトヘイト時代のことですが、もう一度、これまでの体験に基づいたアドバイスをお願いしたいと思います。ボスニアではどういうことをなされるべきでありますか。すなわち、戦争犯罪者として告発されているような、戦犯のような人々にどういうアドバイスがあるでしょうか。

マンデラ こういうことは難しいことです。そういうことに対してアドバイスをするというのは、たやすいことではありません。あれほど複雑な背景を持った社会ですし、しかも、私は、ボスニアについてはそれほどよく知っているわけではありません。あなたご自身も情報についてフルに把握されていない。ですから、限られた情報をもとに何か行動を起こすというのは危険だと思います。

しかし、やはり重要なことは、ほんとうの意味での和解を実現するということです。そして、そのためには努力をした人々、正当な根拠に基づいて、希望を持ってその和解の道を求めてきた人々が、やはりさまざまなパラメーター、さまざまな状況をもとにいろいろな行動をとってきた人たちがいるはずであります。ですから、もし和解委員会の名において、何らかの行動をとるとするならば、当然のことながら、糾弾するには根拠があるはずです。その根拠となるのは真実であるべきであります。やはりその国の裁判所の普通の犯罪の手続き、司法手続きにゆだねられるべきであります。そして、全面的な調査を行い、しっかりと根拠に基づいて糾弾がなされるべきであります。

ウィーゼル マンデラ大統領、私どもの子供の世代に対するあなたの遺産は何だと思いますか。21世紀に残し得る遺産は何だと思われますか。

マンデラ 私が唯一申し上げられるのは、このようなことです。きょう生きている子供たちは、何回も繰り返し申し上げますけれども、国にとっての最も重要な資産だと思います。まさに私どもにとっての未来は子供たちにかかるであります。我々は立ち上

がって、和平のために戦わなければなりません。近隣諸国との和平、それと同時に実際に意見が食い違うような国々とも和平を求める必要があります。これが皆様にお伝えしたいメッセージなのです。

ウィーゼル マンデラ大統領、お時間を割いていただきまして、ほんとうにありがとうございました。感謝申し上げます。フォスター首相にも私どもの心からの謝辞をお伝えいただければと思います。

マンデラ 私どもからもくれぐれもよろしくお伝えいただきたいと思います。(拍手)

ウィーゼル どうもありがとうございました。私のほうこそお話をうながしました。戦犯のような人々にどういうアドバイスがあるでしょうか。

マンデラ そういうことは難しいことです。そういうことに対してアドバイスをするというのは、たやすいことではありません。あれほど複雑な背景を持った社会ですし、しかも、私は、ボスニアについてはそれほどよく知っているわけではありません。あなたご自身も情報についてフルに把握されていない。ですから、限られた情報をもとに何か行動を起こすというのは危険だと思います。

それは、カーター大統領、まだいらっしゃいますか、カーター大統領。

カーター ええ、おります。大丈夫ですよ。

ウィーゼル ありがとうございます。カーター大統領、あなたは最近、ボスニア情勢にもかかわりました。そして停戦をめぐる交渉にも、短期間ではあってもかかわられました。そこでお尋ねします。実際にこの紛争当事者がどのくらい信頼できると思われますか。そして、デイトンでできた協定の内容をどのくらい遵守すると思われますか。

カーター まず、1月1日から交渉を始めまして、4月までそれが続いたわけです。その間、国際的にも交渉が行われ、そして5カ国が交渉する。5カ国委員会ということができることになりました。そのうちの一つがアメリカだったわけであります。その後になりまして、アメリカが全面的な交渉の責任を持つようになって、初めて前進をしたわけであります。私はデイトンの合意というのはよい合意だったと思います。とても複雑な合意でした。2つ、大きな問題がありまして、それがカバーされておりませんでした。セルビア人がサラエボから撤退することに合意するかどうか。それからボスニアの北のほうというのは、デイトンでも交渉されなかった部分があるんですけども、それをどうするかという問題がありました。次の問題というのは、ミロセビッチがデイトンのコミットメントをどうするか、受け入れるのか、拒否するのか。ボスニアのセルビアのリーダー、カラジッチ、それからムラジッチ、そういう人たちが受け入れるかどうかということであります。彼らに圧力をかけて、ミロセビッチのようなセルビ

アのリーダーが圧力をかけて、受け入れさせるようにするのかどうかということが問題であります。

そして、ムラジッチがどのような力を持っているのか、反逆者ではないということになるのか、そして、結局は、このようなデイトン合意を認めるのか認めないのかということが問題なんだと思います。6万ぐらいの兵力があの小さな国にいるということ、それだけでもやはりほんとうにばかげた軍事行動が行われることを、ボスニアのセルビア人勢力がそういうことを行うということは、ある程度予防することができますと思うんですけれども、狙撃兵が何かばかなことをするという個別的な孤立した事件というのは、これは避けられないような気がしますけれども、要は、私はこれまでのところは、デイトン合意というのはよいものだったと思っております。そして、ボスニアのセルビア勢力というのは、彼らの自己利益のためにも、やはりデイトン合意は守ったほうがいいというふうに感じると思います。そうすれば、追加的な交渉によりまして、例えば北のほうのブルチコ回廊、サラエボのセルビア人地区周辺はどうするのかということが決まってくるんだと思います。

ウィーゼル 期限を区切ることは、アメリカ軍のボスニアでの関与という意味でも賢明であったと思いますか。といいますのも、1年後は米軍は撤退しなければならないわけですが。

カーター そうですね。そういう期限を区切ることはよかったです。議会が決めたことですし、もし状況が11ヵ月後に明らかに変われば、大統領はいろいろな決定を下すことができるわけです。例えば、期限を延長するとかいう決定を下すことができるわけです。そして、もし明々白々になれば、私、全く疑惑を持たないんですが、議会も期限延長を認めるでしょう。ですから、まず第1に、米軍を派遣するということにする議会の承認を取りつけるということで、そして1年後にもし撤退しないということになれば、そのときも、やはりそのときの状況に応じて決定すればいいでしょう。

ウィーゼル 11月ごろということですか。たしか選挙ですよね。米大統領選挙がありますよね。

カーター そうです、選挙があります。そういうときに期限を区切るというのは非常に危険なことですよね。ですから、純粋に政治的な観点から見ますと、

例えばテロ行為があったとしますと、例えばレバノン、あるいはソマリアの事件もそうですし、それからアトランタの爆破事件もあったわけですし、アメリカ人は非常に怒りを覚えております。もし判断の誤りがあれば、クリントン大統領の判断の誤りということに、非常に神経質になっております。しかし、そういうことがあるにもかかわらず、やはり和解のチャンスがボスニアで非常に強まっているということですので、やはり政治的な不利益を乗り越えて、行動を起こすべきだと思います。

ウィーゼル カーター大統領、ミロセビッチは、そしてカラジッチも、ムラジッチも、人道に対する、人間に対する戦犯ということで告発されましたけれども、やはり訴追されるべきだと思います。

カーター 私はそう思います。カラジッチ、そしてムラジッチ、ミロセビッチのほうは既に訴追されていますので、そのとおりだと思います。国際司法における判断というものは、ちゃんと私どもは尊重するべきだと思います。告発イコール有罪判決ではありません。これからプロセスについてはまだ不確定だと思います。ご存じのとおり、一つの可能性は確かにあるわけで、カラジッチ、それからムラジッチはそれぞれ自分の支配地域にとどまるかもしれません。

場合によっては、国際司法裁判所に対して、いずれ移送されるということになるのかもしれません、送検されるのかもしれません。そこで、無罪、有罪が決まることになるでしょう。11月の状況におきましては、すべての罪に対して、無罪だと彼らは言い張っているわけです。すなわち、みずから責任はないと主張しております。あくまでもそれは戦争のもとだということで否定をしているわけですけれども、疑いもなく世界のためにも、そして人権を将来保護するためにも、やはり国際司法裁判所において、この罪は問われるべきだと思います。ボスニアのみならず、アフリカのルワンダ、94年の4月に大変な殺戮が行われておりますから、これも問われるべきだと思います。

ウィーゼル カーター大統領、ご存じのとおり、私どもは広島に集まりまして、非常に卓越したノーベル受賞者の方々と一緒にテーブルを囲んでいるわけです。今まで出てきたテーマの中では、例えば核不拡散の問題がございます。参加者の中には、非常に

強い意見を持っている人もいます。核不拡散は100%追求しなければならない、そしてすべての核兵器は最終的には破壊されるべきだということでしたけれども、それに対するご意見はいかがですか、カーター大統領。

カーター これはノーベル受賞者の方々の非常に貴重なる、高尚なる理想だと思います。正しい考え方をする人間であるならば、政治的な指導者であるならば、そして、影響力を行使し得る人間であるならば、必ずそのような考えを抱かなければなりません。何万というような核兵器を将来に向けて持つ必要は全くありません。ご存じのとおり、たしか18カ月前、北朝鮮がまさにこれから1つ、2つの非常に小さな周辺的な核兵器をつくろうとするような疑惑がありました。

ところが、それに対して全世界では、何千という単位の核兵器が既にあるわけです。そういうことを考えれば、疑いもなくこの問題は大変緊急な課題だと思います。今は、一般社会の認識、関心は少し薄まってしまったようですがれども、しかし、旧ソ連邦におきましても、またこの地域におきましては、中国などもあるわけです。フランスにおける非常に残念な核実験によって、また新たに関心が高まろうとしているわけです。したがって、影響力を行使し得る人間であるならば、アメリカの大統領であろうと、ノーベル受賞者であろうと、やはり道徳的な価値観をもとに、その力を行使していただきたい、ぜひ核兵器は削減していただきたいと思います。全く不要で、惨たんたる成果しかもたらさないものだと思います。

ウイーゼル 道徳的には、絶対にそれはしなければならないことですけれども、検証はどうするんですか。

カーター まず第一歩というのは、どのような実験であっても、実験というのは、とにかく検証するというふうに持っていくべきだと思います。ですから、私もフランスが決定をしたときには、太平洋でそれを実験するというふうに言われましたときには、私自身も海軍にいたときに南太平洋に行ったことがありますけれども、こういった大量兵器の実験というのは、今はもう必要ないことだと思いました。やはり包括的な核実験禁止ということをやるべきであります。

それから2番目といたしまして、不拡散条約というものを実効力あるものにする。そして核保有国も、例えばプルトニウムの再利用を行って、それがまた、核兵器の製造ということにつながらないようにするということが重要なことだと思うのであります。私自身、SALT IIの交渉をしました。7年ぐらい続いたわけで、レーガン大統領もブッシュ大統領もソ連を相手に交渉を続けてくださいましたけれども、ここにおきましても、国際的に的の絞った交渉がなされたわけであります。中国、フランス、英国、イスラエル、アメリカ、あるいはウクライナにとりましても、あるいはロシアにとりましても、やはりさらに交渉をして、核兵器を廃絶に向けていくということが大事なことだろうと思います。

ウイーゼル 大統領、あなたはほんとうに忍耐強く私どもにつき合ってくださいました。我々は、エリー・ウイーゼル財団が主催団体であるだけではなくて、朝日新聞も主催団体となっております。中江社長には11月にお越しになられたときにお目にかかるれたこともあるだろうと思います。中江さんのほうからも発言があると思うます。中江さんのスポーツマンのほうからも発言があると思うんですが、どうぞ。

村上 カーター大統領、私は中江社長にかわりましてお話をしております。アトランタで昨年11月にお目にかかれさせていただきました。中江社長はあなたの意見に非常に感服しております。彼が会ったときに、またここで会いましたときに、あなたのお話に非常に注目をいたしました。今夜、この会場には広島の県知事、その他経済界の方々もたくさんおられ、先程からあなたの話を興味深く聞いています。一年前にアトランタであなたと会話を交わしたことひとつつの発端となりまして、このようなすばらしい会議につながっているわけであります。

中江社長のほうからもう一つ言いたいと思っておりますのは、あなたに御礼を申し上げたい。この希望の未来というシンポジウムにインターネット参加してくださったことを喜んでおります。そのうえ、マンデラ大統領もあなたと一緒にインターネットに登場してくださったということで、とてもうれしく思っております。中江社長は、南アに行きましたときにも、マンデラ大統領といいお話をする機会がありました。ですから、彼は昨年お話をしたばかりのお

二人が同時にこの会議にインターネットで参加できることを喜んでいます。

カーター 中江さんをカーターセンターにお迎えすることができましたことは、大変名誉なことでありました。それから、エリー・ヴィーゼルさんとも、大変悲劇的なことではありましたけれども、ラビン首相のお葬式のときにお目にかかることができました。そして、ネルソン・マンデラさんとも、人権問題に関してすばらしいチャンスを持つことができました。まさに希望の未来が強調されているというのはすばらしいことだと思います。皆さん方のすばらしい努力であります。疑いもなく、希望の未来ということを考えるときには、過去や現在の悲劇が和解と平和に変わっていかなければならないのです。

このような新しい技術があるということによって、そういうことが可能になったと思います。すばらしい貢献がなされていると思います。一つ、カーターセンターのような組織ができるることは、それにつけて加える平和への道を見出そうとするということになります。このような技術を駆使いたしまして、和平交渉につなげていくということです。前にも言いましたように、電子的に会合を行うことができれば、非常に強硬な頑迷な人たちも、お互いに信頼していないために会議に物理的に来ることはできないような人たちでも、ビデオや電話などで会議を組織することができれば、随分、和平の努力というのも進むと思うのです。それから、実際の会合をやろうと思えば、何日もかかります。

結びに当たりまして、私は、広島、まさに1945年のグラウンドゼロ、爆心地だったわけでありますけれども、私はアメリカのリーダーとして、まさに爆心地を訪れた初めての人間だったと思います。そして何千人もの方々に話しかけることもいたしました。私は、やはり戦争はいけないと。それは非難しなければならないし、戦争に持っていくような理解の欠如ということは非難しなければならないと思います。今、エリー・ウィーゼル財団と、それから朝日新聞が希望の未来という会議をやっておられるというのほんとうに大事なことでありますし、もっと早くやられるべきことだったと思います。私はここで下される決定や情報というのを継続的に将来にも共有していただきたいと思います。

私はもう一度、中江さんに御礼を申し上げたいと思います。あなたがすばらしい新聞というメディアを持っておられて、これを可能にしてくださって、ほんとうにありがとうございました。

ロッペル 大統領、少しご説明したいと思いますが、我々はまさに文字どおり、あなたがおっしゃっていた爆心地から数百ヤードしか離れていないところにまさに立っているんです。そして、ここには何人も会議の参加者も来ております。私の友人のエリー・ウィーゼルさんからもう一つ質問があるそうですが、もう少し待っていただいて、会議参加者からの質問を受けていただけますでしょうか。エリー・ウィーゼルさんに質問していただいて、大統領のほうにお答えをしていただく間に、ほかの方の質問を集めたいと思います。

クィーゼル カーターさん、私、個人的な質問をしたいと思います。私が希望を失うのは、子供たちの悲劇を目のあたりにしたときです。子供たちが迫害される、あるいは打ち碎かれる、拷問にさらされるときに悲しく思うわけです。そして、絶望のふちに立ってしまうのです。あなたにとっての絶望のふち、その希望を失うときというはどういうときでしようか。

カーター あなたのようなリーダー、あるいはネルソン・マンデラ氏のようなリーダー、あるいはシモン・ペレス首相のようなリーダーたちにとっては、やはり楽観論、楽観的な見方をずっと持ち続けることでしょう。もちろん、絶望的な気持ちに陥るさまざまな困難な状況はあるでしょうが。我々、そして皆さんのようなリーダーにとって難しいことは、例えば、1週間前のことですが、私はルワンダに行っていました。いわゆる大量殺りくが起きた場所であります。5000人の女性や小さな子供たちがよく知っている近所の人たちに殺される。そこから逃れて、一緒に震えつつ集まっていたところに行ってきました。そして、何千もの殺された人たちの頭蓋骨がほうってある。そして、死体や髪や爪などが散乱しているのを目の当たりにしてきました。これはほんとうに希望を捨てている地であります。

しかし、収容キャンプ、難民キャンプに行きますと、何万人の人が家に帰りたがっている。こういった人々は苦しみを、そして困難な時代を切り抜けてきたわけですが、しかし、夢を捨てずに、そしてま

た帰れる日を待ち望んでいるわけであります。5人の元首が集まって、お互いに話をする。このまさに恐るべき悲劇をアフリカで食いとめようとしている、なくそうとしているわけですが、エリー・ウィーゼルさん、あなたは、すぐれた世界のリーダーたちを集め、対話をさせる。これこそ希望を失わないように、希望を何とか保っていこうという努力のあらわれであります。

例えば、地雷を踏んでしまって命を落とす人、やせ細って飢えに悩む人たちの顔、そういう顔を思い起こしますと、希望を失いがちになりますが、しかし、絶望に陥っている人々が、これからも残ることを許してはなりません。そして、希望を実現していくなければならないわけです。そのためにも、私、個人的にあなたに感謝をしたいと思います。今回の会議について、イニシアチブをとっていただいたということ、それから数年前にオスロでもお会いいたしましたが、やはり憎しみという言葉についての話をしました。私もまだ忘れておりません。やはり憎しみとか絶望というところからはい上がって、希望に向かって進もうというのは大いなる前進だと思っております。あなたの努力に感謝します。

コッペル それでは、会議の参加者の皆さんの中で、

質問をしたい、あるいは何かコメントをしたいという方、いらっしゃいますでしょうか。カーターさんはもし質問がないというならば、そろそろ朝食をとりたがっていらっしゃるかと思うんですが、いかがでしょうか。

非常にご親切にご寛大にエリー・ウィーゼルさん、そして私の質問に答えていただいて、ありがとうございました。それでは、そろそろお開きといたしますか。広島から「さよなら」と言わせていただきます。そして、よい朝食をとってください、アトランタで。どうもありがとうございました。

カーター さようなら。(拍手)

ウィーゼル 今度は、ナイトラインのアソシエイトとして、コッペルさんの相手役として、毎晩出ると言わないでしょうね。

コッペル いえいえ、非常にかわいいコー・アンカーの女性が欲しいと思っておりますので。女性でないけれども、ウィーゼルさん、ほんとうにいいと思います。

ウィーゼル 信じられないのかもしれませんけれども、これで終わりです、これで皆さん、お休みいただいて結構です。あしたは8時スタートです。(拍手)

12.7

Thursday 7 December 1995

次の世代を守る

参加者の横顔



新しいマジェスタです。

走行・スタイリング・安全性・トヨタの想いを凝縮した実用車両が誕生しました。車名は「アリオン」。運転・乗り心地にこだわった車両で、直進安定性の良さとVVT-iエンジンの低燃費性能を実現する車両です。

地球市民の使命



ライーゼル財団の活動

〔東京本部〕 12月3日 午後 「源氏からの消息」
〔広島会場〕

国際会議「希望の未来」

文学・科学・経済……幅広く
●序島　對談：英題「The World of Letters」

土賀日吉の自畫像
アーノルト画
かれる國會議場の様子
會議の場所を示す

【】 しかし、相手の意見を尊重する態度をもつて、相手の意見を聞き入れることで、相手の立場を理解する。つまり、相手の立場を理解するための、体験的学習法といふが、これが最も効果的な学習法である。

水口洋の競馬

効きめ、のどから。 パブロンSゴールド、新登場。

「のど」に効く3つの成分

- 塩酸プロムヘキシング、「せき」の原因となる「たん」を取り除きます
 - 塩化リゾチームが、薫れた「のど」の粘膜の炎症をしめます。
 - ノスカビングが、ノスカビング抑制剤、「せき」を止めます

藏金丸抗衰老



〈効能〉かぜの諸症状(のどの痛み、せき、たん、くしゃみ、鼻づまり、頭痛、発熱、喉痛、関節の痛み、筋肉の痛み)の緩和

この医薬品は「使用上の注意」より「腎不全患者に用いて



◆ 僕にアドバイス聞いて



服用前に医師や薬剤師等にご相談下さい。

THE FUTURE OF HOPE

Internet a peace tool for the computer age

By TOSHIJO
ASAHI EVENING NEWS

The Future of Hope conference in Hiroshima gained global attention because of its use of the Internet in its deliberations. Israeli Prime Minister Shimon Peres, South African President Nelson Mandela and former U.S. President Jimmy Carter joined Wednesday's conference through the Internet.

HIROSHIMA DECLARATION

Following is the text of the declaration issued at the conclusion of The Future of Hope conference in Hiroshima.

Because in this century no democracy has waged war without another democracy.

We have been privileged to see the death of apartheid and the collapse of communism in Europe.

Five years after the end of the Cold War, we gathered here to ask, "Is There Hope?"

Hiroshima, home to the largest concentration camp and here in the fields of human flesh turned to ash.

Now, here in a century in which 170 million men, women and children were slaughtered.

Here, in a century when we asked, here in a city whose very name evokes horror and despair, we need hope so badly.

And yet...we hope.

Here, to this city of destruction and death, we came to renew our hope.

Here, to this place of despair, we came to find hope again.

Why do we need hope so badly?

And why do we think we can have it?

We have hope because for half a century there has been no nuclear war.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

Old and new nationalities on every continent could, at any moment, ignite new wars.

So we have knowledge.

We call for the continued research and development of science and technology, and look forward for the day when all nuclear weapons are completely eliminated.

Hiroshima, Dec. 7, 1995

and peace, overcoming cultural, religious and political differences.

Conference organizers said there were about 5,400 "hits" on their conference session and about who sought to follow the proceedings via providers.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however, that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.

The event opened to Tokyo and moved to the Hiroshima venue Tues.

day.

Nishi pointed out, however,

that the Internet is not a panacea.

Communication on the Internet does not guarantee understanding between peoples.

But the Internet is the first conversation to communicate visual as well as voice signals on the Internet.

Here, to this city of destruction, the Japanese entrepreneur said he expects the Internet to help create dialogue

and for other U.S. President Jimmy Carter spoke to the conference from their own countries. Their images appeared on large screens, in a video conference session and abroad who sought to follow the proceedings via providers.

His thoughts were echoed by Ted Koppel, the anchor of ABC-TV's Nightline nowa program who took part in the conference and moderated discussions.

Since the end of the century began, there is a renaissance of freedom and democracy.